

日本は世界最大のロボットメーカー

- 東京での国際ロボット展 (iREX)

フランクフルト、東京-2022年3月10日-日本は世界一の産業用ロボットメーカーであり、世界の供給量の45%を担っています。近年、我が国のロボットサプライヤーは生産能力を大幅に増強しています。2020年には136,069台の産業用ロボットが出荷され、輸出率は78%に上昇しました。これらの結果は、2022年3月9日から3月12日まで東京で開催される国際ロボット展 (iREX) に先立ち、国際ロボット連盟 (IFR) が発表したものです。

「日本の産業用ロボットの輸出は、過去5年間の平均年間成長率が6%でした」と、国際ロボット連盟 (IFR) の会長であるミルトン・ゲリー氏は述べています。「同時に、ロボットの輸入は常に非常に少ないです。2020年では、日本の設備で輸入されたのはわずか2%でした。日本の国内ロボット市場は、中国に次ぐ世界第2位の規模です。」

中国における日本の成功

日本から輸出されるロボット工学と自動化技術の36%は中国に向けられていました。他の国際的なロボットサプライヤーと同様に、日本のメーカーも中国の工場から直接中国市場にサービスを提供しています。これらの工場が産業用ロボットの世界最大の市場にあることは、新型コロナウイルスの大流行により国際的なサプライチェーンが崩壊した2020年においては、大きな利点であることが証明されました。2020年の第2四半期に始まり、今年の後半に勢いを増した中国の危機後のブームにより、日本のサプライヤーは包括的に利益を得ることができました。

新型コロナウイルス大流行からのリバウンド

22%の市場シェアを持つ米国は、日本から輸出されるロボット工学と自動化技術のもう1つのトップ市場です。米国と中国の両国は、新型コロナウイルスの大流行からさらに回復すると予想されています。国内市場とともに、主要な輸出先により日本のロボット工学の需要が保たれるでしょう。

「日常生活におけるロボット」-iREX 東京

「日本は高度にロボット化された国であり、日常生活でのロボットの使用における世界的な先駆者です」と国際ロボット連盟の事務総長であるスザンヌ・ビラー博士は言います。「今年の東京でのiREX展示会は、ロボットによって橋渡しされる、より友好的な社会への道に焦点を当てます。iREXでは、私たちが受け取る製品の品質と入手可能性、炭素排出量削減、健康上の成果、または高齢者の介護などを改善することによりロボットが私たちの日常生活をますます形作っている様子が展示されます。」

ダウンロード

「Robots in Daily Live (日常生活におけるロボット)」の背景情報については、国際ロボット連盟のインフォメーションペーパーをダウンロードしてください。 [国際ロボット連盟 \(ifr.org\)](https://ifr.org)

iREX 国際ロボット展覧会東京ビッグサイト東ホール- 2022年3月9日～3月12日

国際ロボット展は 1974 年に初回開催されました。その後 1 年おきに開催され、今年で 24 回目を迎えます。この展示会は、世界最大のロボット見本市の 1 つとして世界中から注目を集め続け、海外からは 64 か国から約 7,000 人の訪問者がありました：<https://biz.nikkan.co.jp/eve/irex/english/>

IFR: <https://ifr.org/ifr-press-releases/>

IFR [LinkedIn](#), [Twitter](#), [YouTube](#)

プレスコンタクト

International Federation of Robotics

Carsten Heer

+49 (0) 40 822 44 284

press@ifr.org